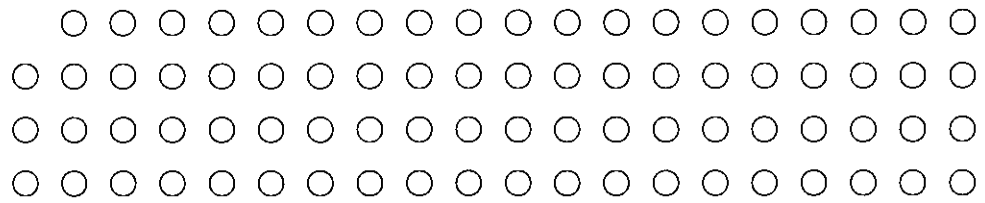


1. 1 災害学習マップ「横渡」

図1・1・1に小千谷市横渡で発生した岩盤すべりを示しています。この現場は妙見白岩で発生した岩盤崩落のすぐ近くにあります。写真からわかるように、まるでスキー場のようすべり面が形成されており（傾斜角度は約22°）、その上に厚さ約3mの岩塊が載っていたことがわかります。そして、この岩塊が地震動によって揺さぶられて、すべり面に沿って下方に崩れ落ちたものと考えられます。図1・1・2に示すように、すべり面付近には厚さ数ミリの凝灰質の砂岩が観察されます。凝灰質の砂岩とは、砂の堆積時に火山灰が砂と混じり合ってきたもので、この砂岩の強さが崩壊メカニズムを解明する鍵になると考えられています。また、この斜面も妙見（白岩）と同様に、地層が流れ盤になっており、地すべりが発生しやすい地形といえるでしょう。隣接する斜面においても同じような岩盤すべりが発生していました。図1・1・3に示すように、これら2つの斜面の先には道路や鉄道が通っていますが、幸いにも大きな被害はでませんでした。

（1行アケ）

1. 2 第2レベルの見出し



（以下に図面を貼り付け）

【書式】本原稿用紙の設定は20字×30行＝計600字で、目次の1ページ分の字数に相当します。本用紙に「です・ます」調で記述して下さい。句読点は「。」と「、」を使用して下さい。数字は全角とし、半角は使用しないで下さい。図表番号は、図1・1・1や表1・1・2のように、章番号・節番号・通し番号の順で振って下さい（写真は図として扱います）。参考・引用文献は文章の最後に、著者名、書名（論文名）、雑誌名、発行所、巻（号）、pp. 1～1、発行年の順に記載して下さい。ただし、使用許諾請求が必要なものは、発行年の後に「（要許諾：相手先名）」を追加して下さい。図表は本用紙に貼り付けて下さい。ルビは括弧書きで名称の後に記入して下さい。

作成者：鈴木素之

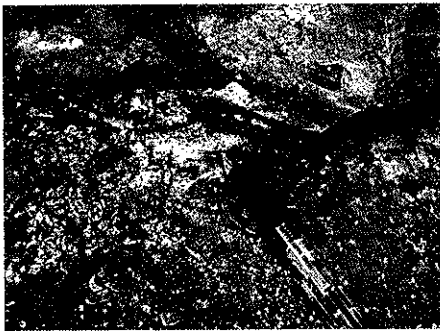
ファイル名：新書_ひながた.doc

作成日時：2008/01/04 23:49:00

最終保存者：Motoyuki Suzuki



図 1・1・1 平滑なすべり面（崩壊跡）と側方に残った岩盤（要許諾：土木学会）



5

図 1・1・2 すべり面になった凝灰質砂岩の薄い地層（要許諾：土木学会）

【書式】本原稿用紙の設定は20字×30行=計600字で、目次の1ページ分の字数に相当します。本用紙に「です・ます」調で記述して下さい。句読点は「。」と「、」を使用して下さい。数字は全角とし、半角は使用しないで下さい。図表番号は、図1・1・1や表1・1・2のように、章番号・節番号・通し番号の順で振って下さい（写真は図として扱います）。参考・引用文献は文章の最後に、著者名、書名（論文名）、雑誌名、発行所、巻（号）、pp. 1～1、発行年の順に記載して下さい。ただし、使用許諾請求が必要なものは、発行年の後に「（要許諾：相手先名）」を追加して下さい。図表は本用紙に貼り付けて下さい。ルビは括弧書きで名称の後に記入して下さい。

作成者：鈴木素之

ファイル名：新書_ひながた.doc

作成日時：2008/01/04 23:49:00

最終保存者：Motoyuki Suzuki



図 1・1・3 斜面の上方から崩壊した岩塊の堆積状況と復旧された道路を望む（要許諾：土木学会）

5

【書式】本原稿用紙の設定は20字×30行＝計600字で、目次の1ページ分の字数に相当します。本用紙に「です・ます」調で記述して下さい。句読点は「。」と「、」を使用して下さい。数字は全角とし、半角は使用しないで下さい。図表番号は、図1・1・1や表1・1・2のように、章番号・節番号・通し番号の順で振って下さい（写真は図として扱います）。参考・引用文献は文章の最後に、著者名、書名（論文名）、雑誌名、発行所、巻（号）、pp. 1～1、発行年の順に記載して下さい。ただし、使用許諾請求が必要なものは、発行年の後に「（要許諾：相手先名）」を追加して下さい。図表は本用紙に貼り付けて下さい。ルビは括弧書きで名称の後に記入して下さい。

